

新岡垣風土記

第432回

ミャンマー（ビルマ）と岡垣②

岡垣歴史文化研究会 入江 東樹



「アジア・太平洋戦争とビルマ戦」
日本軍がビルマに侵攻したのは、1942（昭和17）年1月のことだった。

それまで、ビルマはイギリスの植民地になっていた。

同年5月、日本軍はビルマ北部

の中心地ミートキーナを含むビルマ全土を制圧した。それだけでなく、東ビルマに隣接している中国雲南省の一部にまで攻め込んだ。

日本軍がビルマに侵攻した主な理由は、ビルマの中央部を走っていたイギリス軍による「援蔣ルート」（中国の蒋介石軍を支援するため）の物資を輸送する道路（遮断路）を遮断するためだった。

敗北したイギリス軍は、インドのインパール方面に退却した。

アメリカ軍は中国の蒋介石軍を支援していたため、イギリス軍とともに新たな「援蔣ルート」（インド北東部のレドからミートキーナ

経由で中国へ向かう道路）の建設に乗り出した。

それとともに、イギリス軍が日本軍への反撃を開始した。アメリカ軍に支援された中国軍も北ビルマに攻めてきた。

その後のビルマ戦は大きく2つの戦いに分けられる。1つは「インパール作戦」、もう1つは「北東部の戦い」である。

●インパール作戦

イギリス軍の反撃に対抗するための作戦が、「インパール作戦」だった。

インパールを攻めるには、アラカンの山岳地帯（ビルマとインドの国境）を越えていかねばならない。作戦は1944（昭和19）年3月から開始された。祭師団と弓師団、烈師団の3つの師団（兵士およそ9万人）による大掛かりな体制だった。

日本軍は、インパール近くにまで攻め込んだ。だがイギリス軍の反撃も強く、日本軍の前線は弾薬や食料が不足しても補給がなかった。そのため、作戦続行が困難になった。

同年7月、作戦の中止命令が出された。日本軍の悲惨な退却が始まった。飢餓や病気で倒れる兵士が相次ぎ、屍が連なる山道は、「白骨街道」と呼ばれた。

なお、岡垣からの兵士は「イン

パール作戦」には参加していないため、詳しく報告できない。

●ビルマ北東部の戦い

この戦いの中心になった部隊は、菊師団と龍師団である。

この2つの師団は北九州勢（福岡や佐賀、長崎、大分、沖縄、山口など）で編成されたもので、兄弟師団とも呼ばれた。

岡垣からの兵士も、この2つの師団に属していた。

双方の将兵を合わせると約6万人で、戦死者（戦死者と戦傷病者）は約4万人、激戦だった。岡垣からの兵士の死者は83人で、戦没した場所としてはビルマが最も多い。

主な戦場は北ビルマのミートキーナ周辺と、東ビルマに隣接した中国雲南省の拉孟や騰越だった。筆者の叔父はビルマで戦死した。1948（昭和23）年に岡垣村の役場で作成された「戦没者名簿」によれば、叔父は「1944（昭和19）年10月12日、ビルマのシャン州のラシオで戦死し、部隊名は『菊第8908部隊』と記されている。菊師団に所属していたことになる。

戦死した叔父のことについて、もう少し詳しいことが分かったので、後に紹介する予定である。

次回から、ビルマ北東部での戦いの一部を紹介していく。

つづく